

加藤誠一先生記念号によせて

加藤誠一先生は、一九四三年九月に立教大学経済学部を卒業された後、直ちに経済学部の助手に任せられると同時に二年余りの兵役に服されましたが、爾来、一九八四年三月に定年退職されるまで、実に四十有余年の長きにわたって、本学ならびに経済学部の発展のために力を尽され、学問の府としての本学の名声を高められました。

先生は在職中、経済学部において工業経済学、経済政策論の講義を担当され、きわめて多くの学生の教育に当たられるかたわら、大学院経済学研究科における研究指導によって、外国人留学生を含めて多くの研究者を養成されました。この間、先生は経済学科長、就職部長等の要職を歴任され、立教大学の先輩として学生の指導・育成に特に熱意をもって当たられました。

先生の幅広い学問的業績のなかで特筆すべき研究は、中小企業のものであります。先生の中小企業研究の成果は、わが国経済に重要な地位を占める中小企業の諸問題を解決するという問題意識のもとに、古典的理論の検討と膨大な実態調査を基礎として構築された政策論的性格の強いものであります。先生は、一九六二年四月から一年間にわたって、ヨーロッパ諸国の中小企業の実態をつぶさに調査されましたが、その結果にもとづいて、中小企業問題の存在をわが国固有の問題と解する傾向が支配的であった当時の日本の学界において、はじめて、それが世界各国に共通する問題でもあることを、実証的かつ理論的に解明されました。そして先生は、自ら拓り開かれた中小企業問題の国際比

較をふまえながら、理論的研究のみならず政府の政策立案に積極的に参画され、わが国の中小企業政策の在り方に關する研究水準の高揚に貢献されました。これらの業績は、主著『中小企業の国際比較』（一九六九年）をはじめ、『經濟政策総論』（一九七九年）や先生が編集者の一人となられた『現代中小企業基礎講座』（全五巻、一九七六年）に集大成されております。

先生は、このような学問的業績によって、日本中小企業学会副会長に推されるかたわら、日本經濟政策学会常任理事、日本學術振興会一一八委員会（産業構造・中小企業）委員として活躍されるとともに、国際中小企業学界や中小企業政策国際会議などにおいて、中小企業研究の国際的な発展のために尽力されています。先生はまた、単に学界においてのみでなく、中小企業分野等調整審議会会長（通産省）、中央環境衛生適正化審議会委員（厚生省）、東京都中小企業振興対策審議协会会长（東京都）など、政府ならびに地方自治体關係の各種の審議会の会長等を歴任され、中小企業の振興のために多大の努力を払っておられます。

このように、先生は本学経済学部教授として、わが国の中小企業研究の興隆と中小企業振興の政策立案に目覚ましい活躍をなされ、大学としての本学の権威を高めることに大きな貢献を果たされました。しかも先生は、ここ十年ほどの間に二度も脳血栓に倒れましたが、病軀をおして中小企業の理論と政策の研究の興隆に努力を傾注されました。このような不撓不屈の精神をもって、研究者・教育者としての信念と実践とを貫いてこられた先生のたゆまぬ姿勢は、私ども後進にとってよき手本であり、また大きな励みともなりました。多年にわたって先生から戴きました数々の御指導・御教示を私どもは心から感謝申し上げます。立教大学は、先生の学術上、教育上の功績の顕著なことを認め、一九八四年七月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

いま、先生の定年退職を迎え、経済学部的发展に尽されました先生の御功績を永くとどめるために、本号をもって先生の記念号といたします。先生が健康を完全に取り戻されて、これからもなお一層の御活躍をされることを希い、これまでと渝らぬ御助力を経済学部のために賜われますようお願いしてやみません。

一九八四年一〇月

経済学部長 高 橋 昭 三